

(案)

大垣市教育振興基本方針

ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣

保幼・小・中学校が連携し「ひたむきに生きる力」を育むための
教育環境を築きます

こころ豊かにたくましく生きる子どもを育みます

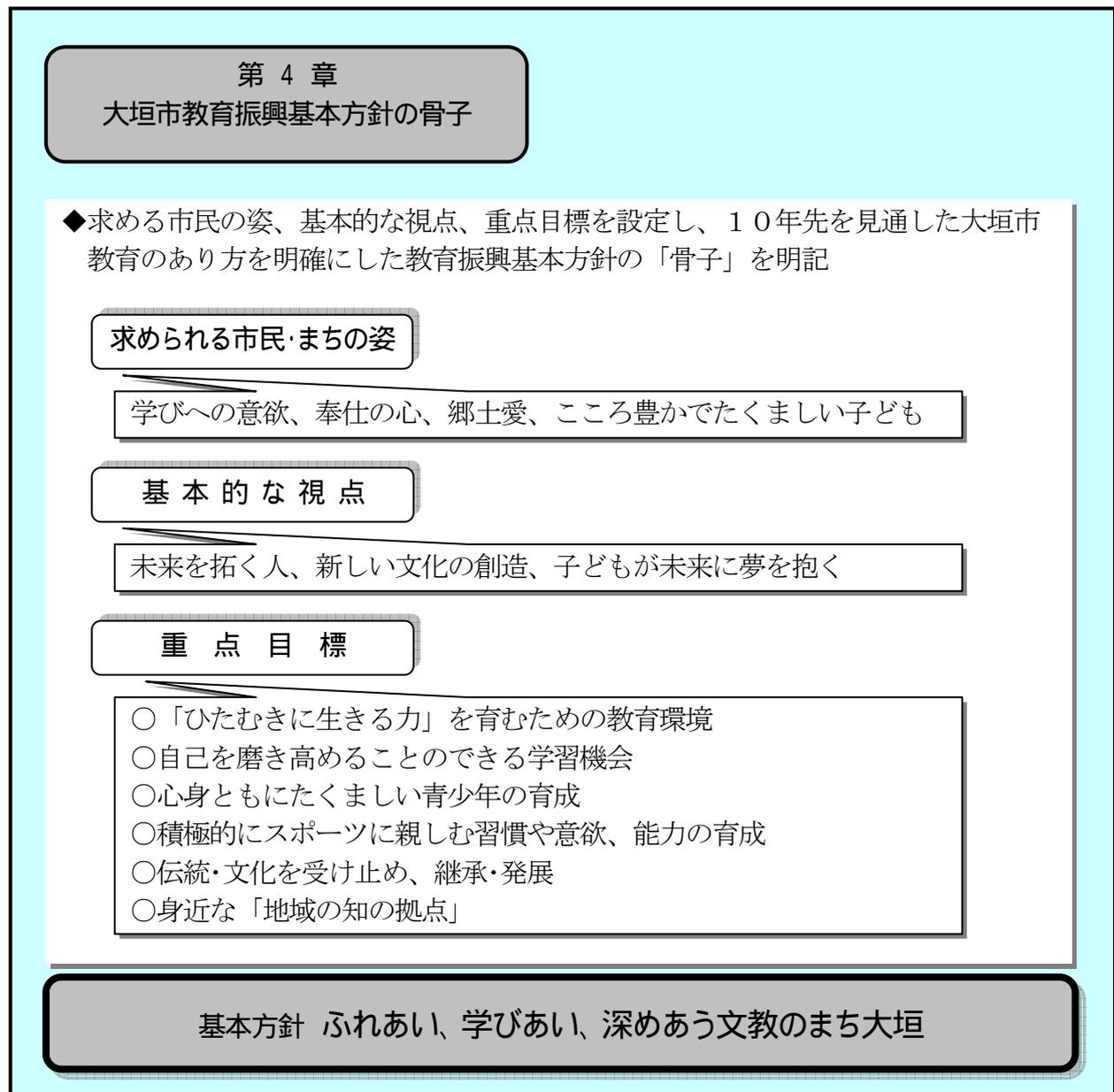
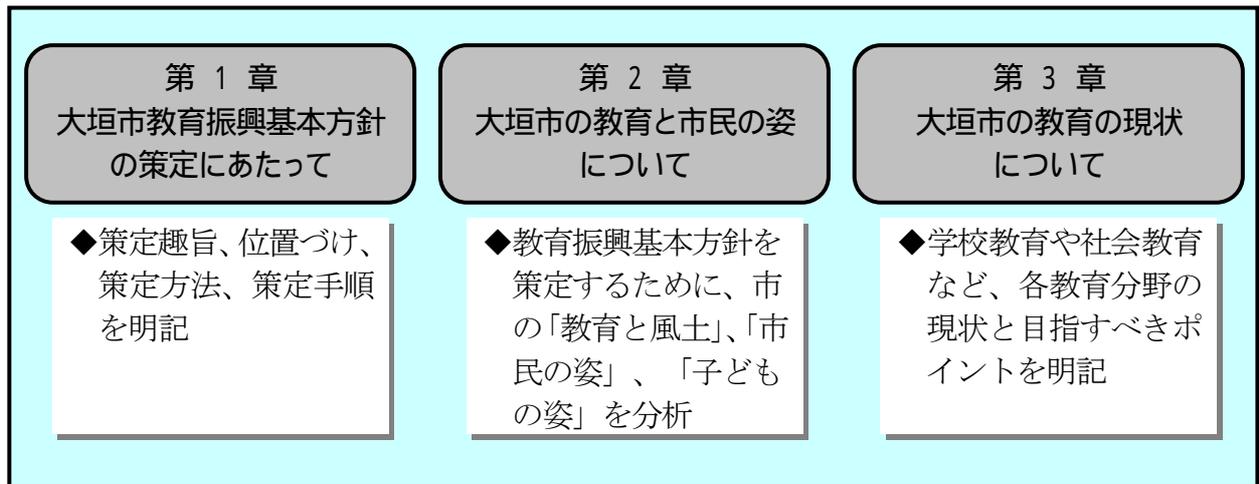
生きがいをもって活動できるかおり高いまちを築きます

学校、家庭、地域が協働し、明るく健全な地域社会を築きます

平成 21 年 9 月

大垣市教育委員会

大垣市教育振興基本方針の構成



目 次

第1章 大垣市教育振興基本方針の策定にあたって

1. 策定趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 策定方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
4. 策定手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 大垣市の教育と市民の姿について

1. 教育と風土・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 市民の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
3. 子どもの姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 大垣市の教育の現状について

1. 学校教育分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
2. 社会教育分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
3. 生涯スポーツ分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
4. 芸術文化分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
5. 文化財分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
6. 教育行政分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

第4章 大垣市教育振興基本方針の骨子

1. 骨子の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
2. 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
3. 市民の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
4. 基本的な視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
5. 重点目標と分野別振興計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
6. 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

第1章 大垣市教育振興基本方針の策定にあたって

1. 策定趣旨

平成18年12月に教育基本法が改正され、新しい時代の教育理念が明示されるとともに、教育基本法第17条2項の規定に基づいて、地方公共団体には、地域の実情に応じた教育振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならないと規定された。

国においては、平成20年7月に「教育立国」を目指した「教育振興基本計画」が閣議決定され、改正教育基本法の理念の実現に向け、今後おおむね10年先を見通した教育の目指すべき姿と、平成20年度から24年度までの5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策が示された。

また、岐阜県においては、平成19年6月、各界の有識者からなる「明日の岐阜県教育を考える県民委員会」を設置し、岐阜県の新しい教育ビジョンの策定に向けた政策論議がスタートし、平成20年12月に今後の岐阜県教育が目指すべき基本的方向性を明らかにした基本理念・基本目標などが「岐阜県教育ビジョン」として策定された。

そこで、本市においてもこうした国や県の動向を踏まえ、「大垣市第五次総合計画」を上位計画として大垣の地域性、独自性をもたせながら、今後10年先を見通した大垣市の教育の在り方と、教育行政を進めるための『道しるべ（指針）』として大垣市教育振興基本方針を作成するものである。

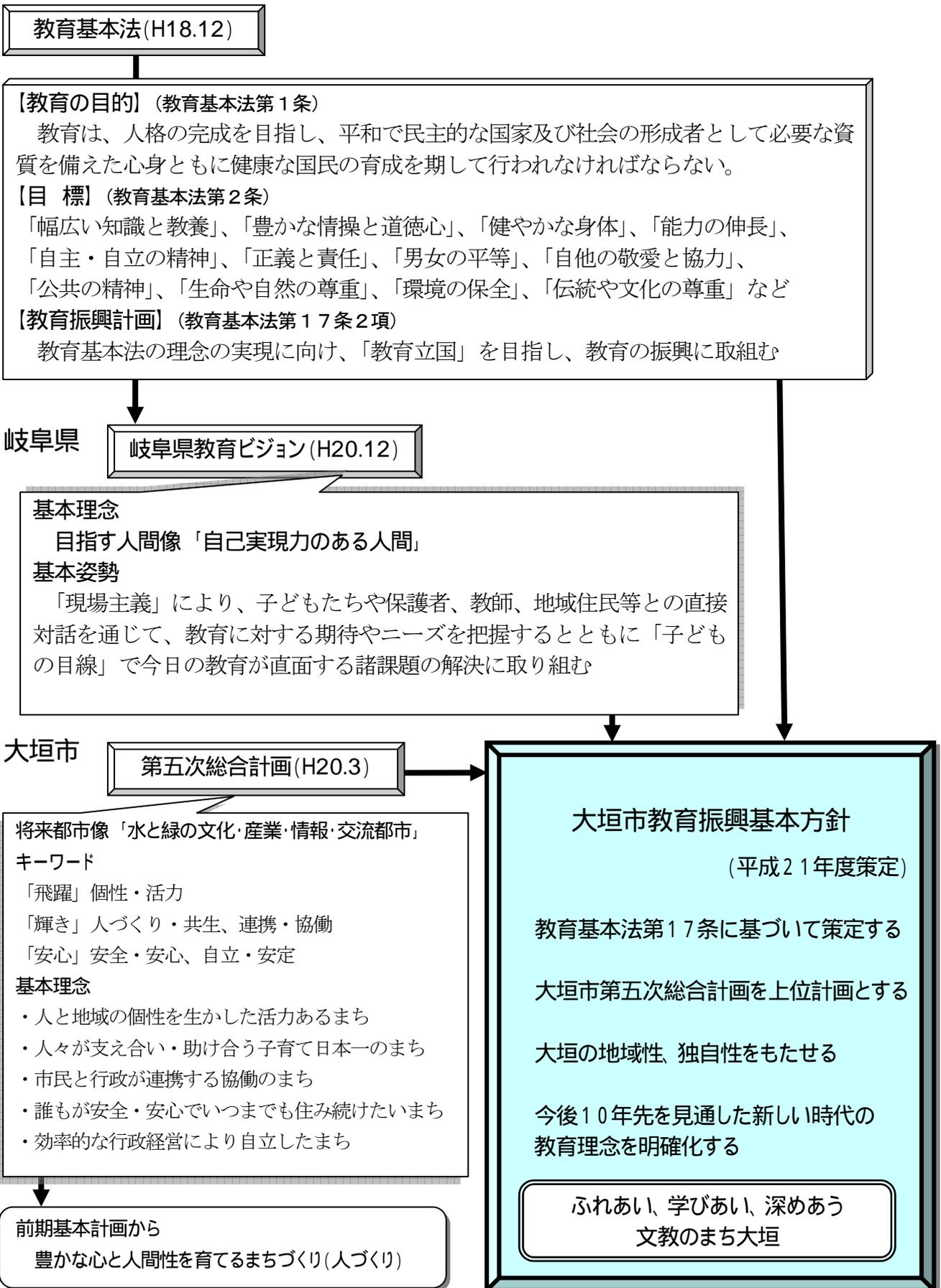
2. 位置づけ

- 教育基本法第17条に基づいて策定する大垣市の教育振興基本計画。
- 「大垣市第五次総合計画」を上位計画とする教育分野の総合的な計画とし、より具体的な目標などを示すもの。
- 教育各分野の振興計画との整合・連携をはかり、方向性を示すもの。

3. 策定方法

- 学識経験者、学校教育・社会教育・青少年育成・体育振興・文化振興・図書館関係者、市民委員（公募）で策定委員会を組織する。
- 施策の立案や実施におけるプロセスの透明性を確保するとともに、幅広い意見を得るため、教育に関する市民アンケート調査、パブリックコメントを実施する。

4. 策定手順



第2章 大垣市の教育と市民の姿について

1. 教育と風土

- 大垣は、初代大垣藩主戸田氏鉄公の教育や文化を大切にする気風を歴代藩主が受け継ぎ、特に、八代藩主戸田氏庸が幕府の昌平坂学問所にならない藩校「学問所」を開くなど、一貫した文教尊重の施策に支えられ、文教のまちとして大きく発展してきました。
- 明治の初めには日本で最初の博士を次々に生んだ地であり、「学問のまち」「博士のまち」として有名で、また、鉄道など様々な分野で日本の近代化や発展に活躍された人も数多く輩出したことで知られています。
- こうしたことから、大垣は今日まで長年にわたり教育を大切にする土壌を培い、「文教のまち」といわれてきました。
- しかしながら、大垣が「文教のまち」であるということが、市民アンケート結果を見る限り、市民の間に広く浸透していない状況にあります。
- 今後、本市が「文教のまち」としての伝統を受け継ぎ、さらに発展させていくためにも、市民の心に響くような教育施策を地道に進め、普及啓発をしていくことが求められます。

◇「大垣市が「文教のまち」といえると思うか」の問いに、「思う」が約18%に対し、「思わない」の26%と「どちらともいえない」の約51%をあわせると約77%の人が「文教のまち」と思っていない。

◇しかし、「思う」の約67%が50歳以上と、年齢が高くなるほど大垣市を「文教のまち」と思う割合が高くなっている。(平成21年6月実施「大垣市教育振興基本方針策定のための市民アンケート調査」(以下「教育方針市民アンケート」という)から)

☞ 文教のまちを実感できる施策や環境整備が必要であり、特に、若年層に対する啓発が大切である。

◇「今後、文教のまちとして発展していくためには、何を大切にしたらいいか」の答えの上位3つは、「子どもが未来に夢と希望をもてる教育環境を整備する」「郷土の歴史や伝統を守り、後世に継承する」「いつでも自由に学習機会を選択し、学ぶことができる生涯学習社会をつくる」となっている。(教育方針市民アンケートから)

◇地域・まちづくり活動について、今後参加してみたいとしているのは、「生涯学習、文化、スポーツ活動」が最も多く、次いで「福祉活動」「環境保護活動」「地域の防災・防犯活動」と続いている。(平成18年6月実施「大垣市第5次総合計画策定のための市民アンケート調査」(以下「5次総市民アンケート」という)から)

☞ これらから想起される文教のまちとして大切にしていくことは、「子どもが未来に夢と希望をもてる社会」「郷土の歴史や伝統の継承」「生涯学習社会(生涯学習、文化スポーツ活動が手軽にできる社会)の創出」などである。

2. 市民の姿

- 大垣市民の学習活動や奉仕活動等に対する意欲は高く、芸術文化活動をはじめ、スポーツに親しむ市民も多く見られます。その要因（原動力）として、本市の社会教育面における特徴といえる長い歴史をもつ市立図書館や成人学校と、市民力を結集してつくられた体育連盟、文化連盟、文教協会などの存在が挙げられます。
- まず、図書館は明治44年に市民の寄付により閣東小学校内に創設され、大正5年には大垣公園内に移転し、昭和4年に個人の寄付により藩校跡地に近代的図書館が建築されました。現在は、市制60周年記念としてスイトピアセンター内に新築しました。藩政資料や藩校で使われた教科書を所蔵し、「文教のまち」大垣を市民に継承しています。
- また、成人学校は、昭和26年5月に「学ばんとするすべての人のために」と、第1回を開講して以来、今日まで58年にわたり、その数139回におよび、数多くの市民の学びの意欲の喚起とその手助けをしてきました。これらの受講生等の地域への広がりが、昨今の地区センターまつり等の盛り上がりに見られるように、市民の生涯学習活動の成果の現れであるといえます。また、かがやきライフタウン構想の礎の一翼を担ってきたともいえます。
- 一方、市民スポーツを普及振興し、市民の体力向上を図ると共に、地域社会の発展に寄与することを目的に体育連盟が昭和26年5月に、また、教育尊重の伝統にかんがみ、本市の教育の刷新充実を図るため文教協会が昭和39年11月に、さらには、大垣地域における芸術文化事業の啓発・育成に努め、市民文化の振興に貢献するため文化連盟が昭和56年11月に、それぞれ設立され、今日の本市のスポーツ・教育・文化の発展に大きく貢献をしてきました。
- 特徴は、それぞれの関係者だけでなく、多くの市民や市民団体、加えて企業および企業人が積極的に参画し、教育や文化、スポーツの振興に対する大きな力となっている、これが他都市にはない大垣の誇るべき風土のひとつであるといえます。
- また、大垣の市民性は、市民アンケートや人国記等によれば、『奉仕の精神、共同意識が強い』『郷土愛が豊か』『清らかさ、純真さ、やさしさ』がうかがえます。さらには、地域の学校を大切にし、地域のまちづくりに理解があり、芸術文化への関心が高い市民性であるとのことでした。
- こうした大垣人のよき風土や市民性をさらに伸長していくことが求められ、そのための大きな役割を担うのは教育であり、教育の使命ともいえます。
- そこで、「学びへの意欲」や「奉仕の心」を大切にし、「かおり高い文化」や「郷土を愛する心」を育て、「スポーツ等を通して健康な人」であふれるまち大垣を創造することで、大垣市の教育力の再生と「文教のまち大垣」の復活をめざしていく必要があります。

◇「文教のまち」だと答えた人の最も多い答えの上位3つは、「奉仕、福祉、街づくりに対する市民意識が高い」「地域の学校を大切にするなど教育を尊重する伝統文化が息づいている」「市民の芸術文化活動が盛ん」となっている。

◇大垣市民のイメージに最もあうと考えられる姿は何ですかの問いに、「互いに支えあい、奉仕の心をもつやさしい大垣市民」が最も多く約34%、次いで、「郷土を愛し、郷土のためにつくす大垣市民」が約25%、「文化や芸術を愛し、感性豊かな大垣市民」が約13%となっている。(教育方針市民アンケートから)

☞ キーワード「奉仕の心」「まちづくりへの意識」「教育尊重」「豊かな感性」「やさしさ」「郷土愛」「共同意識」

◇吉岡勲氏が「岐阜県人」のなかで、『美濃・飛騨はそれぞれ一つの単位としての歴史が長く、独自の性格をつくってきている。早い話が人国記は次のようだ。(中略)「美濃は全体として意地が水晶のようにきれいだ。水晶は磨かなければ光らないが、美濃は根性が良いので、垢を早くけずり落として、よく道理に従う。しかし美濃を東西の二つに分けていえば、西濃は、滑らかそうに見える反面、徹底するところが少なく、言葉は風流である。(以下略)』と述べている。(「岐阜県人(新人物往来社)から)

(※人国記：北条時頼の作品といわれている)

◇『美濃の大垣二度より三度、来れば住みたい、暮したい、アレス水の都は意気のまち』…大垣小唄の文句のとおり、まったく大垣は暮らしよいところであることは間違いないようである。それは官吏や警察官などで転々と勤め先を変った果てに大垣を永住の地と定めて住み着く人が随分多いように思うのである。(「改定復刻 大垣ものがたり」社団法人大垣青年会議所発行から)

☞ キーワード「純真さ」「すなおさ」「人情味が深い」

《参考》

「飛騨は律儀で愚だ。その愚かさぶりは、日本広しといえども、これ以上の国はないと決め込んでいる点でも分かる。井の中の蛙といえよう。ただ生まれつきは鉄石の性と言ってよい」(「岐阜県人(新人物往来社)から)

3. 子どもの姿

○近年、少子高齢化、高度情報化、国際化の進展や経済的な豊かさの実現など、社会が成熟する中で、家庭や地域の教育力低下の問題、人間関係の希薄化が指摘されています。また、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、いじめや問題行動など、全国的に見ても多くの面で子どもを取り巻く課題もあります。

○大垣の子どもの基本的な生活状況は、平成20年の全国学力・学習状況調査等から、次のことが浮かんできます。

《家庭や地域とのかかわり》

○「住んでいる地域の行事に参加する」「住んでいる地域の歴史や自然に関心がある」は、全国平均を上回っており、地域とのかかわりが強く現れています。しかし、「家の人と学校での出来事について話をする」「家の手伝いをしている」や「近所の人にあつたときは、あいさつをする」では、全国平均を下回っており、家庭におけるかかわりや、地域の人とのかかわりが希薄になっている姿があります。

◇「住んでいる地域の行事に参加する」の問いに、「参加している」大垣市の小学生は76.0%、中学生は56.5%に対し、全国の小学生は59.9%、中学生は37.0%となっている。

◇「住んでいる地域の歴史や自然に関心がある」の問いに、「関心がある」大垣市の小学生は53.6%、中学生は24.6%に対し、全国の小学生は48.2%、中学生は23.5%となっている。

(平成20年全国学力・学習状況調査(以下「学習状況調査」という)から)

☞ 小中学生共に地域行事への参加率が非常に高く、地域社会とのかかわりが強い。

◇「家の人と学校での出来事について話をする」の問いに、「話をしている」大垣市の小学生は69.0%、中学生は56.5%に対し、全国の小学生は69.2%、中学生は57.9%となっている。

◇「家の手伝いをしている」の問いに、「手伝いをしている」大垣市の小学生は73.0%、中学生は55.2%に対し、全国の小学生は77.5%、中学生は60.6%となっている。

◇「近所の人にあつたときは、あいさつをする」の問いに、「あいさつをしている」大垣市の小学生は87.9%、中学生は80.1%に対し、全国の小学生は88.7%、中学生は82.7%となっている。(学習状況調査から)

☞ 家庭や地域の人とのかかわりが、全国と比較して若干低い^①が、規範意識は概ね身につけている。

《学ぶ意欲等》

○「家で計画を立てて勉強する」「家で普段1時間以上の勉強をする」「家で予習・復習をする」と答えた児童生徒は、全国平均を大きく上回っており、学習習慣は概ね身につけているといえます。

◇「家で計画を立てて勉強する」の問いに、「勉強している」大垣市の小学生は68.3%、中学生は42.2%に対し、全国の小学生は52.0%、中学生は34.2%となっている。

◇「家で普段1時間以上の勉強をする」の問いに、「勉強している」大垣市の小学生は72.7%、中学生は79.9%に対し、全国の小学生は56.1%、中学生は65.4%となっている。

◇「家で予習・復習をする」の問いに、「予習している」大垣市の小学生は37.3%、中学生は40.2%に対し、全国の小学生は35.4%、中学生は28.4%となっている。(学習状況調査から)

☞ 学ぶ意欲は全国平均を大きく上回っており、学習習慣は概ね身につけている。

- また、「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒も全国平均を上回っていますが、小学6年生が85%であったのに対し中学3年生になると71.1%に下がっています。子どもたちが夢や目標をもち続けられるように、発達段階に応じた取り組みが必要です。

◇「将来の夢や目標をもっている」の問いに、「夢や目標をもっている」大垣市の小学生は85.0%、中学生は71.1%に対し、全国の小学生は84.7%、中学生は70.7%となっている。(学習状況調査から)

☞ 小学生と比較して中学生は約14%下がっているため、未来に夢を抱き、実現していく力を育てる教育が必要である。

《体験活動》

- 「海、山、湖、川などで遊んだことがある」「動物を飼育したり、花や野菜を育てたりしたことがある」「包丁やナイフを使って調理をしたことがある」は、いずれも全国平均を下回っており、体力・運動能力の低下が懸念されることから、自然体験や実体験をする活動等の取り組みが必要です。

◇「海、山、湖、川などで遊んだことがある」の問いに、「遊んだことがある」大垣市の小学生は79.8%、中学生は75.9%に対し、全国の小学生は84.4%、中学生は77.2%となっている。

◇「動物を飼育したり、花や野菜を育てたりしたことがある」の問いに、「育てたことがある」大垣市の小学生は77.0%、中学生は67.5%に対し、全国の小学生は79.3%、中学生は69.9%となっている。

◇「包丁やナイフを使って調理をしたことがある」の問いに、「調理したことがある」大垣市の小学生は84.1%、中学生は79.7%に対し、全国の小学生は86.3%、中学生は81.7%となっている。(学習状況調査から)

☞ 全国平均を若干下回っており、自然体験活動や家庭教育の充実が必要である。

◇文部科学省では、昭和60年頃から子どもの体力・運動能力の低下傾向が続くと共に、肥満などの生活習慣病の増加が深刻な社会問題となっているため、中央教育審議会答申「子どもの体力向上のための総合的な方策について」を受け、平成15年度より子どもの体力向上推進事業を実施している。

(文部科学省HP 子どもの体力向上から http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/tairyoku/1266260.htm)

子どもの体力の現状

◇文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃から現在まで低下傾向が続いています。現在の子どもの結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下回っています。一方、身長、体重など子どもの体格についても同様に比較すると、逆に親の世代を上回っています。このように、体格が向上しているにも関わらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力の低下が深刻な状況であることを示しているといえます。

子どもの体力低下の原因

◇子どもの体力低下の原因は、保護者をはじめとする国民の意識の中で、外遊びやスポーツの重要性を学力の状況と比べ軽視する傾向が進んだことにあると考えられます。また、生活の利便化や生活様式の変化は、日常生活における身体を動かす機会の減少を招いています。

さらに、子どもが運動不足になっている直接的な原因として、次の3つをあげることができます。

1. 学校外の学習活動や室内遊び時間の増加による、外遊びやスポーツ活動時間の減少
2. 空き地や生活道路といった子ども達の手軽な遊び場の減少
3. 少子化や、学校外の学習活動などによる仲間の減少

(子どもの体力向上HPから <http://www.recreation.or.jp/kodomo/intro/now.html>)

☞ 屋外で遊んだり、スポーツに親しむ機会を意識して確保すると共に、積極的に体を動かす機会を作っていく必要がある。

大垣市児童生徒の体力の実態について(平成13年度以降)

- ◇小学校男子 「握力」は、すべての学年で全国平均を下回っているが、低下状況は止まる傾向にある。
「50m走」は、すべての学年で全国平均を下回る傾向にある。
「ソフトボール投げ」は、大きな変化はみられないが、全国平均をやや下回る傾向にある。
- ◇小学校女子 「握力」は、すべての学年で全国平均を大きく下回り、差が広がっている。
「50m走」は、すべての学年で全国平均を下回っているが、差が小さくなってきている。
「ソフトボール投げ」は、どの学年も全国平均並で、大きな変化はみられない。
- ☞ 小学校では、1年生から学年が上がるにつれて全国平均との差が縮まっていることから、体育の授業や学校行事などで子どもの体力を高める取組みが成果をあげている。
- ◇中学校男子 「握力」は、全国平均とほぼ同じであるが、近年、全体的に低下傾向にある。
「50m走」は、ほぼ全国平均並みである。
「ソフトボール投げ」は、全国平均をやや上回っている状況が、近年続いている。
- ◇中学校女子 「握力」は、低下傾向が続いていたが、全国平均並みに上昇した。
「50m走」は、毎年の変動が大きい、ほぼ全国平均である。
「ソフトボール投げ」は、やや全国平均を上回る傾向にある。(児童生徒の体力調査報告書から)
- ☞ 中学校では、全国平均並みになっているため、中学校に入学してからの部活動の加入率が高いことや、保健体育の指導内容の工夫が大きな成果をあげている。

《規範意識》

- 「学校の決まりや、規則を守る」「友達との約束を守る」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」など、いずれも約90%前後の児童生徒が答えており、概ね規範意識が身につけているように思われます。しかし、「人が困っているときは、進んで助ける」と答えている児童生徒は、約75%まで下がっており、さらに「体の不自由な人やお年寄りや困っている人を手助けしたことがある」と答えている児童生徒は約40%と低い割合になっています。

- ◇「学校の決まりや、規則を守る」の問いに、「守る」大垣市の小学生は92.5%、中学生は89.9%に対し、全国の小学生は86.3%、中学生は87.4%となっている。
- ◇「友達との約束を守る」の問いに、「守る」大垣市の小学生は97.5%、中学生は97%に対し、全国の小学生は96.4%、中学生は96.1%となっている。
- ◇「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の問いに、「いけないことだと思う」大垣市の小学生は95.7%、中学生は90.7%に対し、全国の小学生は94.7%、中学生は89.5%となっている。
- (学習状況調査から)
- ☞ 規範意識は全国平均を上回ると共に、90%を超えていることから、概ね身につけている。

- ◇「人が困っているときは、進んで助ける」の問いに、「進んで助ける」大垣市の小学生は76.4%、中学生は73.5%に対し、全国の小学生は77.7%、中学生は72.7%となっている。
- ◇「体の不自由な人やお年寄りや困っている人を手助けしたことがある」の問いに、「手助けしたことがある」大垣市の小学生は37.8%、中学生は40.3%に対し、全国の小学生は41.3%、中学生は41.7%となっている。(学習状況調査から)
- ☞ 規範意識は高いが、実際、困っている人を手助けしたことがある児童生徒は40%程度で、全国平均を下回ると共に、行動が伴っていないのが現状である。

《保護者の願い》

- 保護者の子どもへの願いは、「あいさつやお礼などの礼儀作法を身に付けた子」、「命の尊さや思いやりの心をもった子」「物事の善悪を判断することのできる子」「約束や社会のルールを守ろうとする子」等、社会における規範意識や倫理観を大切にする思いが強く、「基礎的・基本的な学力を付けた子」を望む回答を上回っています。
- 社会が急速に変化を遂げ、人間関係の希薄化が進む中では、基本的な生活習慣や最低限の規範意識、生命の尊さ、他人への思いやりなどを培うことが望まれています。

◇どんな子に育てたいと願っているかの問いに、「あいさつやお礼などの礼儀作法を身に付けた子」が約65%、「命の尊さや思いやりの心をもった子」が約61%、「物事の善悪を判断することのできる子」が約60%であったことから、社会における規範意識や倫理観の低下を懸念していると思われる。[「教育方針アンケート調査\(保護者\)」](#)から

☞ 社会における人と人とのつながりを回復し、地域コミュニティの再構築が必要である。

- これらのことから、子どもたちの姿としては、「豊かな心をもつ子ども」「志が高く学ぶ意欲をもつ子」「社会のルールを守り、思いやりの心を大切にする子」が求められます。
- そのためには、家庭だけでなく、地域社会における人と人とのつながりを大切にし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を支えていくことが必要です。地域活動、体験活動等を充実すると共に、何よりも子どもたちが将来に夢をもてるような取り組みが欠かせないといえます。

第3章 大垣市の教育の現状について

1 学校教育分野

1. 学校教育分野における取り組みについて

大垣市の小中学校においては、学級・学習集団づくりが教育環境の基盤と考え、集団が生み出す「みんなで学ぶ、みんなに学ぶ」という教育力を活かし、子どものやる気を高め、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の「知・徳・体」調和の取れた「ひたむきに生きる力を育む教育」を進めています。

なかでも特色ある教育活動として、『保幼・小・中一貫性ある教育』では、保幼・小の連携による就学前教育の推進、小学校「英語科」と中学校「外国語科」をはじめとした『教科の一貫性ある指導』に着手し、保幼・小・中のなめらかな接続を目指しています。

さらに『学社融合による教育』においては、国際理解教育から地域や地元企業を巻き込んだ多文化共生教育、授業における外部講師や地域人材の計画的な配置と活用などに取り組んでいます。

こうしたなか、平成21年4月には、教育研究所を教育総合研究所に改編し、学校教育の課題の一つである「不登校児童生徒の減少」を図るために、学校や家庭、関係機関等と連携をより一層強化して、様々な態様の不登校児童生徒の支援を進めています。

また、特別支援教育に対する要望が高いことから、通常学級へ支援員を配置することや、外国人児童生徒を対象にした初期指導教室など、一人ひとりの教育的ニーズに対応する教育を進めています。

学校教育は、子どもたち一人ひとりに確かな学力を身に付け、豊かな心を育み、自らの能力を最大限に発揮して自己実現を図るためのものです。

これまで以上に「知・徳・体」の調和のとれた児童生徒の健全育成を目指して、教育環境を充実し「心にしみいる感動の教育」を大切にしながら、明るく活力のある学校づくりに努め、子どもたちが大垣の歴史・文化を受け継ぎ、未来に夢を抱き、実現していく力を育てるような指導に取り組んでいきます。

今後も保護者や地域から学校運営等に関する意見を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域が果たすべき役割を明確にし、それぞれがその役割を果たしつつ、地域に開かれた学校・信頼される学校をつくるため、家庭や地域との共通理解を目指して連携協力を進めていきます。

2. 主な施策

(施策1) 生きる力を育む教育の推進

○確かな学力を育むため、基礎基本の確実な定着を目指した少人数指導の導入、英語を中心とした外国語教育におけるコミュニケーション能力の育成、小学校高学年に対し専門性をいかした教科担任制などの試験的導入をしています。今後、確かな学力の定着に有効な小学校教科担任制を、すべての小学校に広めていく必要があります。

☞ 確かな学力の定着

○豊かな人間性を育むため、道徳の時間と他の教育活動との関連を明確にするとともに、1家庭1ボランティアなど、家庭・地域社会と一体となった地域ぐるみの道徳教育をしています。今後も、自立心や規範意識、生命を尊重する心など、全学年を通じて重点とする内容、発達段階に応じて重点とする内容を明確にし、より効果的な指導を行っていく必要があります。

☞ **豊かな情操や規範意識、道徳心の醸成**

○健やかな体を育むため、学校給食を通じて食全般への関心、体育で運動に親しむ習慣を身につけるような指導をしています。子どもたちの体力、運動能力の低下は止まりましたが、運動をする子どもとあまりしない子どもの二極化の問題が新たな課題となっています。

☞ **食育の推進・子どもの運動への関心、体力を高める取り組みの充実**

(施策2) 一人ひとりに応じた教育の実現

○不登校傾向の児童生徒や保護者の相談に応じる「ほほえみ相談員」の配置、家庭に学習支援員の派遣、学校復帰を支援する適応指導教室の開設など、不登校児童生徒数の減少と健全な育成を図っています。しかし、小中学校ともに、国・県よりも不登校児童生徒数の出現率が高い状態が続いています。

☞ **不登校対策の充実**

○障がいの重度化や重複化が進む特別支援学級には介助員を、^{*}ADHD等により特別な支援を必要とする通常学級には支援員を配置し、一人ひとりの教育的ニーズに対応しています。近年、通常学級を希望する保護者が多く、早い時期からの就学指導がさらに必要となっています。

☞ **適切な指導、必要な支援を行う特別支援教育の充実**

適正就学判定数と就学率

	H16	H17	H18	H19	H20
判定を受けた人数	40人	29人	33人	29人	31人
入級児童数	28人	23人	24人	22人	24人
通常学級在籍数	12人	6人	9人	7人	7人
就学率	70.0%	79.3%	72.7%	75.9%	77.4%

※ADHD (Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder : 注意欠陥/多動性障害) とは、年齢や発達につりあいな不注意さや多動性、衝動性を特徴とする発達障害で、日常活動や学習に支障をきたす状態をいいます。

○外国人児童生徒を対象に、授業や集団生活に適応できるようにするため、初期指導教室（日本語指導、算数・数学指導、生活適応指導）、日本語教室を開催しています。今後は、自尊心を培ったり、学力の向上を図ったりすることが必要となってきています。また、日本人児童生徒の見方、考え方を豊かにし、異なる文化をもつ人々とともに歩もうとする配慮や能力の育成が求められています。

☞ **多文化共生教育に対する理解の拡張**

外国人児童生徒数

	H16	H17	H18	H19	H20
全児童生徒数	13,236人	13,229人	14,107人	14,147人	14,129人
外国人児童生徒数	193人	196人	223人	276人	282人
割合	1.46%	1.48%	1.58%	1.97%	2.00%

(施策3) 地域に開かれた学校づくりの推進

○学校の教育目標、経営方針等を保護者や地域社会に積極的に情報提供するとともに、学校自己評価、学校関係者評価を実施・公表し、改善充実をしています。今後、評価をどのように改善に活かし、学校教育を行っているかについて、保護者や地域社会に理解と協力を得られるかが課題です。

☞ **保護者、地域と連携し、開かれた学校・活性化された学校**

地域に開かれた学校事例

分類	主な内容
体力づくりによる触れあい	地区運動会
地域の大人との触れあい	三世代交流
	大垣市明るい青少年都市市民会議
情報公開	学校評価の公表

○教育活動に地域人材等を計画的に導入し、主に体験的な活動や伝統文化に親しむことにより、地域との関わりが進んでもてる教育をしています。今後も各学校が新たな地域人材を導入し、地域の体験的な活動と教育活動の関連を明確にし、学習への活用を図っていくことが重要です。

☞ **地域と学校が連携し、地域が学校を支える新たな仕組み**

地域人材の活用数

	H18	H19	H20
活用人数	5,008人	5,769人	5,621人

○各学校では、特色ある学校をつくるため、学校・家庭・地域の人々への思いやり、郷土への愛着・国際感覚の高揚を図るなど、豊かな心と社会性を育む「学校夢づくり21」を展開しています。特色ある学校づくりは、保護者や地域を巻き込んだ活動への広がり重要になっています。

☞ 地域を巻き込んだ特色ある学校づくりの推進

特色ある学校づくり（学校夢づくり21事業）実施例

分類	主な事業名		
ふるさと学習	紙すき体験	わらびもち作り	野菜づくり体験
	茶摘み体験学習	炭焼き体験	
体力づくり	一輪車交流大会	さわやかけん玉大会	持久走大会
福祉活動	福祉フェスティバル	福祉施設との交流	アルミ缶回収
音楽活動	合唱コンクール	歌声活動	
多文化交流	外国人との交流会		

○学校を地域コミュニティやスポーツ振興の核とするため、学校施設を開放し、地域との連携を積極的に進めています。しかし、夜間の利用希望が非常に多く、すべての要望に対応できていないのが現状です。

☞ スポーツ活動の拡大、地域とのつながりを強化

学校開放施設利用状況数

	H19	H20
運動場(昼間)	180,104人	200,494人
運動場(夜間)	16,761人	21,943人
体育館(昼間)	146,185人	128,960人
体育館(夜間)	190,698人	192,173人
合計	533,748人	543,570人

3. 学校教育活動を支える主な団体

団体名	内容
大垣市文教協会	教育尊重の伝統に鑑み、教育の振興・充実を図るため、教職員の資質向上のための各種研究会、研究発表、講演会の開催や「文教のまち大垣」の発刊など、大垣市の教育力の向上を図っている。
P T A	P T A (Parent Teacher Association) は、児童・生徒のよりよい教育環境の醸成を目ざす保護者と教員によって構成される教育関係団体で、それぞれの学校ごとに組織され、学校行事の補助や読み聞かせ、交通安全指導、学校評価など、多分野にわたる学校運営支援を行っている。
学校評議員会	学校運営等に関する意見を求めるなど、地域に開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域住民などの相互の意思疎通や協力関係を高めている。

4. 今後目指すべきポイント

- ◎確かな学力、豊かな人間性、健康な体を育み「生きる力（知・徳・体）」の調和のとれた児童生徒を育てる。
- ◎保幼・小・中の一貫性ある教育を進め、未来に夢を抱き、実現していく力を育てる。
- ◎保護者や地域から信頼される学校をつくるため、家庭や地域との共通理解を図りながら、連携協力する。

2 社会教育分野

1. 社会教育分野における取り組みについて

市民一人ひとりが誇りと責任をもち、それを未来にひらく、活力に満ちたまちづくりをすすめるため、心の豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を図ることが求められています。社会教育では、市民の学習意欲の啓発・推進を図るとともに、幼児期からそれぞれの発達段階に応じた学習機会の提供を進めています。

また、平成16年9月に社会参加や地域貢献を通して、自己実現や生きがいを実現できるまち・大垣を創りだすために、「かがやきライフタウン構想」を策定し、市民・企業・行政などによる協働型まちづくりを進めています。こうしたなか、市民協働の重要性が高まり、社会教育活動の新たな展開を図るため、平成19年3月に生涯学習課、保健体育課を廃止し、同年4月にかがやきライフ推進部を設置し、生涯学習に関することは、かがやきライフ推進部が、家庭教育、青少年健全育成、人権教育に関することは教育委員会が所管する組織改編をしました。

現在、だれもが、あらゆる機会に、あらゆる場所において学び、その成果を適切に生かすことができるような環境を整えています。特に、市民の連帯を深める各種の地域活動やボランティア活動等との協働事業を行い、ふるさとを愛し地域を支える次代の担い手を育成する「家庭教育」「地域づくり」「体験活動」を重点的に進めています。

今後も、ひとづくりがまちづくりであり、まちづくりがひとづくりとなるよう社会教育推進体制の整備をはじめ、社会教育活動・社会教育施設の充実に努める必要があります。

2. 主な施策

(施策1) 社会教育活動の充実

○家庭の教育力の向上を目指し、発育・親子のふれあい等の講座を通して、親の役割を学ぶ機会を提供しています。家庭教育講座の開催需要に対応できないため、回数、時間数の見直しと市民団体との協働事業の展開を検討しています。

☞ 教育の原点である家庭の教育力の向上

家庭教育学級参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
学級数	45	45	45	57	55
参加人数	5,597人	5,063人	6,799人	10,539人	8,887人

○学校休業日の地域活動として開催する講座、社会見学、奉仕活動等を支援し、親と子のふれあいや地域の大人と子どもの交流を図っています。講座内容への要望は、特に、体験型の学習機会を中心とした講座の充実が求められています。

☞ 地域における子どもの居場所づくり、地域が子どもを育て見守る環境の整備

まるごと土曜学園参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
講座数	27	26	33	32	29
参加者数	16,433人	14,896人	15,004人	14,135人	12,867人

○人権尊重の意識を高める教育を推進するため、人権講座を開催するとともに、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題への正しい理解と認識を深めるための学習機会の充実を図っています。しかし、人権に関する市民意識調査では、約6割の人が「人権侵害を受けたことがある」と回答していることから、今後も、人権教育を推進していきます。

☞ 人権尊重の気風

平成18年10月実施 大垣市「人権尊重の街づくり」に関する市民意識調査
(有効回答数939)

これまでに、どのようなことで人権侵害を受けたことがありますか？	
あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	30.7% (288人)
職場での不当な待遇	13.6% (128人)
プライバシーの侵害	11.8% (111人)
名誉・信用のき損、侮辱	9.7% (91人)
公務員など公権力による不当な扱い	8.6% (81人)
いじめ、虐待	8.1% (76人)
差別待遇	6.8% (64人)
暴力、脅迫、強要	4.5% (42人)
セクシャル・ハラスメント	3.8% (36人)
ストーカー行為	1.7% (16人)
その他	2.2% (21人)
人権侵害を受けたことはない	41.0% (385人)

※人権侵害を受けたことがある人は約6割

同和教育講演会・人権講演会参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
同和教育講演会参加者数	253人	185人	176人	109人	169人
人権講演会参加者数	585人	220人	240人	378人	289人

3-1. 社会教育活動を支える主な団体

団体名	内容
家庭教育推進協議会	地域における家庭教育支援を推進するため、ママくらぶ、母親講座、おやこでリズムあそび等の講座を開催するなど、家庭における教育力の向上を図っている。
P T A	家庭教育学級の役割は、子どもたちの豊かな心や主体性を育てることにある。子育てやしつけについて学習する場、悩みを話し合える場等をつくり、家庭教育学級の充実を図っている。
レクリエーション協会	市民の健やかな余暇活動の機会を提供するとともに、多様なレクリエーション活動の普及と、それを楽しむための仕組み、組織づくりに取り組んでいる。

(施策2) 青少年活動の充実

○青少年がこころ豊かにたくましく成長するために、家庭、地域での青少年健全育成や社会環境の整備を進めています。とりわけ、地域の中で子どもを温かく見守り支援しようとする大人を増やす「地域のおじさん・おばさん運動」を進めています。今後とも、この運動に賛同する大人の数を増やし、地域における教育力を高めていく必要があります。

☞ 青少年を育てるための健全な家庭づくりの推進

「地域のおじさん・おばさん運動」の登録者数

	H 1 8	H 1 9	H 2 0
登 録 者 数	1,321 人	1,957 人	3,006 人

○少年の船派遣事業や子ども会リーダースクールなどを開催し、地域で活躍できるリーダーの育成のための研修会を実施しています。少年の船派遣事業では、市内小学6年生の代表者に、洋上や野外等で集団生活を体験させることにより、リーダーとしての資質を養っています。また、リーダースクールへの参加者数は減少傾向にあります。子ども会活動は、地域における少年活動の中心を担う重要なものであり、今後とも振興を図っていく必要があります。

☞ リーダーの育成のための研修会の実施

子ども会リーダースクールの参加者数

	H 1 6	H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0
参 加 者 数	164 人	211 人	216 人	120 人	97 人

○子どもや親子で参加できる講座・企画などの情報を集め、週末や長期休暇中に活動機会や家庭教育に関する情報を提供しています。求められる情報の把握、乳幼児をもつ家庭や高齢者からの配布要望など、多様化するニーズに対応できていないため、内容構成、配布方法を含めた対応を検討しています。

☞ **学びと遊びのための情報の提供**

「この指とまれ」の発刊数

	H16	H17	H18	H19	H20
発行部数	84,000部	84,000部	84,000部	84,000部	84,000部

3-2. 青少年活動を支える主な団体

団体名	内容
大垣市青少年育成財団	心豊かな青少年の育成を目的に、大垣市明るい青少年都市市民会議への支援や、草の根的な青少年活動を行っている団体への助成事業などを行っている。
大垣市明るい青少年都市市民会議	大垣市青少年育成財団とともに青少年の健全育成という同一の目的をもって、主に、地域社会全体で青少年の健全育成を推進する気風の醸成や、地域のボランティア、市民団体等との協働による、青少年の主体的な地域づくりへの参画に対する支援を行っている。
大垣市青少年育成推進委員会	「家庭の日推進」、「大垣市少年の主張大会」など、青少年健全育成活動の普及徹底を図るとともに、地域の実態に即した実践活動（街頭補導、パトロールなど）を展開している。

(施策3) 図書館の充実

○地域を支える情報拠点として「暮らしに役立つ市民の図書館」を目指して、多様な資料や情報を収集し、市民に提供しています。今後は、地域や市民生活の課題解決や、まちづくり人づくりに役立つ資料や情報を提供する施設として、多様な資料の充実や図書館サービス拠点の整備充実が必要となっています。

☞ 社会の変化に対応した図書館サービスの充実

蔵書冊数・貸出冊数

平成20年4月1日現在

	蔵書冊数	1人当たりの蔵書冊数	個人貸出冊数	一人当たりの貸出冊数
大 垣	393,000 冊	2.4 冊	648,000 冊	3.9 冊
県 内 の 市 立 図 書 館	—	3.1 冊	—	4.6 冊
同 規 模 市 の 公 立 図 書 館	499,000 冊	3.1 冊	973,000 冊	6.0 冊

○市立図書館の創設以来、藩校の蔵書や藩政資料を収集・整理し、テーマごとに展示や講座を開催して、蔵書資料の情報を提供しています。今後は、「文教のまち」大垣の歴史や文化を後世に伝承していくために、歴史的資料を体系的、継続的に収集・整理し、資料の電子化による提供の整備が求められています。

☞ 「文教のまち」を受け継ぐ心の醸成

歴史資料収集状況

歴史的資料	古文書	漢籍本	和 本	その他
点 数	24,000 点	4,000 点	10,000 点	新聞、雑誌、写真等

(施策4) 子どもの読書環境の充実

○子どもたちが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくために必要な読書活動を推進できるよう市立図書館や学校図書館の整備を図っています。今後は、豊かな心をもち、健全な精神の発達を遂げ、情報を収集し活用する能力や読解力を身につけるように、幼児期からの読書習慣の形成と読書環境の整備が求められています。

☞ 子どもの読書推進活動・子どもの読書環境の整備

開催事業

	H16	H17	H18	H19	H20
ブックスタート実施数	939 人	1,471 人	1,504 人	1,510 人	1,484 人
読 み 聞 か せ 会	103 回	102 回	168 回	165 回	144 回
お話の会「おひざでだっこ」	—	—	—	30 回	62 回

ブックスタートとは、保健センターで毎月実施される4か月児健康診査時に、親子に絵本や読み聞かせの楽しさやその方法を伝えるため、読み聞かせ指導員が、絵本2冊と図書館が作成した読み聞かせのしおり「絵本とかあちゃん すてきなひとときを」の入ったブックスタートパックを手渡ししながら、読み聞かせ指導をするもの。

公立図書館の児童図書蔵書冊数・貸出冊数 平成20年4月1日現在

	蔵書冊数	個人貸出冊数
大 垣	108,000 冊	246,000 冊
同規模市の公立図書館	124,000 冊	321,000 冊

学校図書館の蔵書冊数・貸出冊数（小学校）

	H16	H17	H18	H19	H20
蔵書冊数	194,912 冊	201,798 冊	258,770 冊	253,176 冊	260,391 冊
貸出冊数	442,106 冊	469,110 冊	593,226 冊	647,561 冊	743,912 冊

学校図書館の蔵書冊数・貸出冊数（中学校）

	H16	H17	H18	H19	H20
蔵書冊数	127,629 冊	131,144 冊	145,967 冊	149,354 冊	149,187 冊
貸出冊数	61,899 冊	74,109 冊	77,190 冊	76,808 冊	72,517 冊

H16、H17は大垣地域のみ

3-3. 図書館活動を支える主な団体

団体名	内容
読み聞かせネットワーク	<p>保育園、幼稚園、小学校、公民館、地区センター、及び市立図書館で読み聞かせボランティア活動しているグループや個人を対象にネットワークを構築し、情報提供や読み聞かせのスキルアップのための研修会、子ども読書フェスティバルを開催している。</p> <p>平成20年度 ①学習会5回開催 参加者 延べ100人（18グループ） ②子ども読書フェスティバル開催 参加者 延べ1,540人</p>

(施策5) まちづくり市民活動の充実

○かがやきライフタウン構想を推進するため、講師を広く一般公募し、市民と行政がともに講座を作り上げていく市民協働の生涯学習事業で、陶芸、書道、絵画、料理、文学などの趣味・教養講座を生涯学習へのきっかけづくりとして「かがやき成人学校講座」を開催しています。

子どもの頃に戻って小学校で学びながら、熟年世代と小学生との積極的な世代間交流を図るとともに、受講生同士の仲間意識を高め、今後の社会参加や地域貢献へ繋げていくため、50歳以上の熟年世代を対象に「かがやき熟年スクール」を開催しています。生涯学習講座に対する受講生のニーズは高く、また、講師として活躍したいと希望する市民も多いため、講座数の増加と充実が求められています。

☞ 市民の社会参加や地域貢献などを通じた自己実現や生きがい

4. 今後目指すべきポイント

◎学校・家庭・地域が連携協力し、明るく健全な地域社会を構築する。

◎子育てに関する学習機会・情報提供・相談などを通じて、家庭の教育力を向上する。

◎市民一人ひとりが生涯を通じて、生きがいをもってそれぞれの意欲や興味に応じた学習活動ができる環境を整える。

◎地域を支える情報拠点として歴史資料の収集・整理と子どもが豊かな心を持ち、自主的に読書活動を行うことができるよう、市立図書館の整備充実を図る。

3 生涯スポーツ分野

1. 生涯スポーツ分野における取り組みについて

多くの市民がスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らすことができるよう、生涯スポーツをはじめ、競技スポーツ・少年スポーツの振興に努めています。

また、身近な地域において、体力や年齢、目的等に応じてスポーツを気軽に楽しむことができる豊かな環境の整備を進め、平成24年に開催される「ぎふ清流国体」に向け、本市開催6種目（水泳・軟式野球・フェンシング・柔道・サッカー・ソフトボール）の会場となる体育施設の整備を計画的に進めています。

小中学生の頃から地域で気軽に運動にふれ、運動に親しむことを通して、地域コミュニケーションが深まり、市民が明るく豊かで活力に満ちた地域社会を実現することが基本です。

市民一人ひとりがスポーツ活動の必要性を認識し、健康な日常生活を営むことができるよう、暮らしにスポーツのある地域づくりを進めていく必要があります。

2. 主な施策

(施策1) 生涯スポーツの振興

○身近なところでスポーツに親しむコミュニティ活動を充実するために、各地域におけるコミュニティスポーツの普及を進めています。年齢や性別を問わず、いつでも、誰でも気軽に参加することができる、軽スポーツの普及と啓発活動に努め、より多くの地域住民の参加を促しています。

☞ すべての人がスポーツに親しみ健康の促進

スポーツ・レクリエーション祭(6月開催)および大垣市民総体(10月開催)参加人数

	H16	H17	H18	H19	H20
参加人数	12,000人	11,000人	14,200人	14,200人	14,300人

(施策2) 競技スポーツの振興

○競技スポーツを盛んにするための選手の育成・強化、体育施設の整備を進めています。競技団体や学校・企業クラブ等と連携し、小中高一般へと一貫した選手の育成と指導者の養成を図っています。

☞ 学校、競技団体、スポーツクラブ等が連携協力し、競技力の向上

(施策3) 少年スポーツの振興

○運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向が見られ、小学校早期の段階による運動未経験等が起因して、体力の平均値が全国平均よりも低い状況が続いています。競技力向上のため小中学校の体育振興団体（小体振、中体連）、少年団やクラブチーム等へ実技指導者派遣のサポートをして、児童生徒の体力の向上を図っています。

☞ 児童生徒のスポーツへの意欲と体力

スポーツ少年団入団員数

	H15	H16	H17	H18	H19	H20
児童数	8,893人	8,895人	8,945人	9,612人	9,561人	9,585人
入団員数	2,561人	2,510人	2,623人	2,646人	2,625人	2,628人
入団率	28.8%	28.2%	29.3%	27.5%	27.5%	27.4%

スポーツテスト平均推移（50m走）

	H15	H16	H17	H18	H19
小1男子（国）	11.65	11.60	11.57	11.68	11.67
（市）	12.03	11.97	11.86	11.12	12.63
小6男子（国）	8.91	8.89	8.95	8.89	8.91
（市）	9.04	9.14	9.10	9.10	9.03
中1男子（国）	8.47	8.51	8.47	8.52	8.55
（市）	8.51	8.52	8.60	8.58	8.56
中3男子（国）	7.60	7.55	7.54	7.56	7.53
（市）	7.45	7.44	7.49	7.53	7.56
小1女子（国）	11.93	11.90	11.94	12.01	11.98
（市）	12.30	12.32	12.21	12.36	12.58
小6女子（国）	9.25	9.22	9.20	9.22	9.19
（市）	9.33	9.53	9.34	9.37	9.33
中1女子（国）	8.98	9.01	9.01	9.07	9.02
（市）	9.05	9.05	9.14	9.06	9.04
中3女子（国）	8.80	8.75	8.76	8.71	8.75
（市）	8.64	8.68	8.76	8.63	8.82

（ゴシック：タイムが速い）

（施策4）スポーツ環境の充実

○すべての年齢層が身近な地域においてスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らすことが出来るようスポーツ環境の充実を図っています。しかし、身近な地域でのスポーツ環境整備が望まれる中、現在、各体育施設とも老朽化が進んでいるため、計画的な施設改修をしており、環境整備の充実が必要です。

☞ 各種体育施設の改善・充実

3. スポーツ活動を支える主な団体

団体名	内容
財団法人 大垣市体育連盟	広くスポーツの普及・振興を推進するとともに、市民の健康増進と体力の向上を図ることを目的としている。 なかでも、校区体育振興会の組織力強化と地域スポーツの活性化を図っている。
校区体育振興会	生涯スポーツの普及による地域住民の健康増進と相互交流を図ることを目的として、小学校区（大垣地域17、上石津地域1、墨俣地域1）ごとに発足し、主な事業は、地域市民運動会に代表される地域スポーツ大会など体育行事の開催を行っている。
体育指導員	各体育振興会において、スポーツの実技指導、助言、企画、コーディネーターとして地域におけるスポーツ振興の役割を担っている。
スポーツ少年団	スポーツを計画的、継続的に行うとともに、野外活動・学習活動・奉仕活動などを通して集団活動を身につけ、将来、立派な社会人として成長してもらえよう子どもの育成に取り組んでいる。

4. 今後目指すべきポイント

- ◎スポーツに親しむことを通じて、個性豊かで活力に満ちた人と地域社会の実現を図る。
- ◎身近な地域において、体力や年齢、目的等に応じてスポーツを気軽に楽しむことができる豊かな環境を整備し、有効活用を図る。

4 芸術文化分野

1. 芸術文化分野における取り組みについて

芸術文化は人々の創造性を育み、その表現力を高め、感動や生きる喜びをもたらすとともに、こころ豊かな生活を実現する上で、不可欠なものです。

内閣府の「国民生活に関する世論調査」においては、国民の6割が「心の豊かさ」を求めており、人々にゆとりと潤いをもたらす芸術文化の果たすべき役割は大きく、市民の関心は高まっています。

このため、大垣音楽祭、大垣演劇祭、大垣市芸術祭、学校句会ライブ、夏休み企画展など子どもたちに芸術文化に触れる感動や楽しさを伝え、感性を刺激することで豊かな人間性と多様な個性を育てています。

また、市民の誰もが暮らしの中で質の高い芸術文化に触れ、豊かな感性と創造性を育む、文化のかおり高いまちを目指して、芸術文化事業の推進や芸術文化環境の充実に努めています。

今後は、市内の文化施設等を拠点とし、市民が芸術文化に親しみ、発表できる機会を創出していきます。

2. 主な施策

(施策1) 芸術文化事業の推進

○市民の誰もが暮らしの中で質の高い芸術文化に触れ、豊かな感性と創造性を育むため、俳句事業など特色ある芸術文化事業の充実、各種芸術文化情報の提供、地域文化の振興を図っています。しかし、市民の芸術文化事業に対するニーズが多様化してきており、事業の企画内容が反映しにくくなっています。

☞ 特色ある芸術文化企画の充実

芭蕉蛤塚忌全国俳句大会投句者数

	H16	H17	H18	H19	H20
投句者数	22,022人	13,757人	15,096人	14,669人	16,564人

(施策2) 芸術文化環境の充実

○感動や喜びをもたらす、生活や心を豊かにするために、芸術文化団体の活動支援、芸術文化施設の活用環境や発表機会の充実などを進めています。

しかし、市民のニーズは年々高度化・多様化しており、時代に即した施設として利活用が図れるよう施設の改修が必要です。

☞ 芸術文化施設の改善・充実

文化会館入場者数及び利用者数

	H16	H17	H18	H19	H20
入場者数	204,116人	163,321人	130,878人	170,036人	162,823人

3. 芸術文化活動を支える主な団体

団体名	内容
大垣市文化連盟	大垣地域における芸術文化活動の啓発・振興に努め、市民文化の向上を図っている。
財団法人 大垣市文化事業団	市民の自主的で、個性的な芸術文化活動を助長するとともに優れた芸術文化を広く市民に提供し、地域に根ざした芸術文化の振興を図っている。

4. 今後目指すべきポイント

- ◎市民の誰もが暮らしの中で質の高い芸術文化に触れ、豊かな感性と創造性を育む、文化のかおり高いまちを創造する。
- ◎子どもたちに芸術文化に触れる感動や楽しさを伝え、感性を刺激することで豊かな人間性と多様な個性を育む機会を創出する。
- ◎市内の文化施設等を拠点とし、市民が芸術文化に親しみ、発表できる機会を創出する。

5 文化財分野

1. 文化財分野における取り組みについて

文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた市民共有のかけがえのない財産であり、次代の人々に引き継いでいかなければなりません。

また、受け継がれてきた郷土の祭りや文化、伝統行事等が数多くあり、これらの伝統文化を通じて、市民のふるさと意識を高めるとともに、これらを誇りとしてまちを愛する心を育てるため、伝統芸能や行事等の保存活動などを進めていく必要があります。

このように、古くから郷土に受け継がれている文化財や伝統芸能に対する意識を深め、大切に保存・育成し、後世に伝承するため、文化財の保存と活用、伝統文化の継承や文化的景観の保全、文化財愛護意識の高揚に努めていく必要があります。

2. 主な施策

(施策1) 文化財の保護

○文化施設の活用、指定文化財や埋蔵文化財の保護事業、伝統芸能等の保存活動の支援などにより、貴重な文化財の保存と活用に取り組んでいます。しかし、文化施設は建設から相当の年数が経過しており、改修が必要な時期となっています。また、未整備や未調査の文化財もあり、その対応が必要です。

☞ 文化財の保存と活用、伝統文化の継承

指定文化財件数

	H16	H17	H18	H19	H20
国指定	7	7	9	9	10
県指定	27	27	37	37	37
市指定	121	121	161	163	162

歴史民俗資料館入場者数

	H16	H17	H18	H19	H20
入場者数	5,912人	7,538人	16,185人	8,503人	11,098人

(施策2) 文化財愛護意識の高揚

○文化財愛護団体の育成、文化財や郷土の先人を学習する機会の充実、市史編纂の推進などにより、郷土大垣を愛する意識を醸成しています。しかし、今後さらに文化施設での学習機会の充実などにより、子どもたちや市民に幅広く継続的に働きかけを行っていく必要があります。

☞ 文化財愛護意識の高揚

親子体験教室（昼飯大塚古墳の模型をつくろう）参加者数

	H16	H17	H18	H19	H20
参加者数	31人	58人	38人	23人	30人

3. 文化財保護活動を支える主な団体

団体名	内容
大垣市文化財保護協会	大垣市民の文化の向上に資するため、市に所在する文化財の保護・顕彰および活用に努めるとともに、会員相互の研究と鑑賞の便宜を図っている。
文化財等保存会	市等の指定文化財の保護活動や啓発活動、また民俗芸能等の後継者育成活動などを行っている。
文化財愛護少年団	子どもたちを対象に、郷土の文化財を通して、先人の築いた歴史や文化を理解させ、郷土を愛する心を育てるとともに、協調性、社会性を養う活動をしている。 また、市内外の文化財や文化施設での開催や、史跡の清掃活動を通じた文化財愛護意識の向上に努めている。

4. 今後目指すべきポイント

- ◎文化財保護計画の策定や文化施設の充実などにより、文化財の保存と活用を図る。
- ◎伝統芸能や伝統行事の調査と保存活動の支援などにより、伝統文化の継承を図る。
- ◎文化財愛護団体の育成や活性化、また郷土の文化財や先人を学習する機会の充実などにより、文化財愛護意識の高揚を図る。
- ◎市史編纂事業を推進する。

6 教育行政分野

1. 教育行政分野における取り組みについて

大垣市教育委員会では、新しい時代に対応した教育を進めるため、学校教育の充実をはじめ、社会教育・スポーツ・文化の振興など、各種施策を展開してきました。

また、社会の変化とともに、教育を取り巻く環境や子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下など、多くの面での課題が指摘される中、教育委員会では教育現場における課題を把握し、事業の点検、評価、見直しから教育行政運営の活性化を図っています。

そこで、10年先を見通した大垣市教育の在り方を考えると「子どもが未来に夢を抱き実現していく力」を育てることが大切で、子どもたちへの教育は、学校だけで担えるものではなく、学校・家庭・地域の三者がそれぞれの役割を果たしながら、連携協力していくことが必要です。

なかでも家庭は非常に大きな役割を担っており、このような連携・協力を進めるためには、学校、家庭、地域が、大垣の子どもたちをどのように育てていくかについての考えを共有することが不可欠です。

このため、今後の教育行政は、家庭や地域からの参画を積極的に進め、それぞれの意向を十分に把握し、施策に反映していく組織体制の充実と迅速な対応が必要です。

2. 主な施策

(施策1) 教育行政の推進

○歴史と文化を育む文教都市「大垣」をめざして、豊かな人間性を育むための学校教育の推進、社会教育・スポーツ・芸術文化の振興など、幅広い分野にわたる教育行政を一体的に進めています。現在、社会が急速な変化を遂げる中、大垣市における教育を取り巻く環境も変わりつつあります。このため、教育の在り方を先達の歩みから根本までさかのぼり、大垣の歴史・文化を、教育を通じて次代に伝え、より豊かなものに発展させ、子どもたちが未来に夢を抱き、かおり高い文教のまち大垣を築いていくことが必要です。

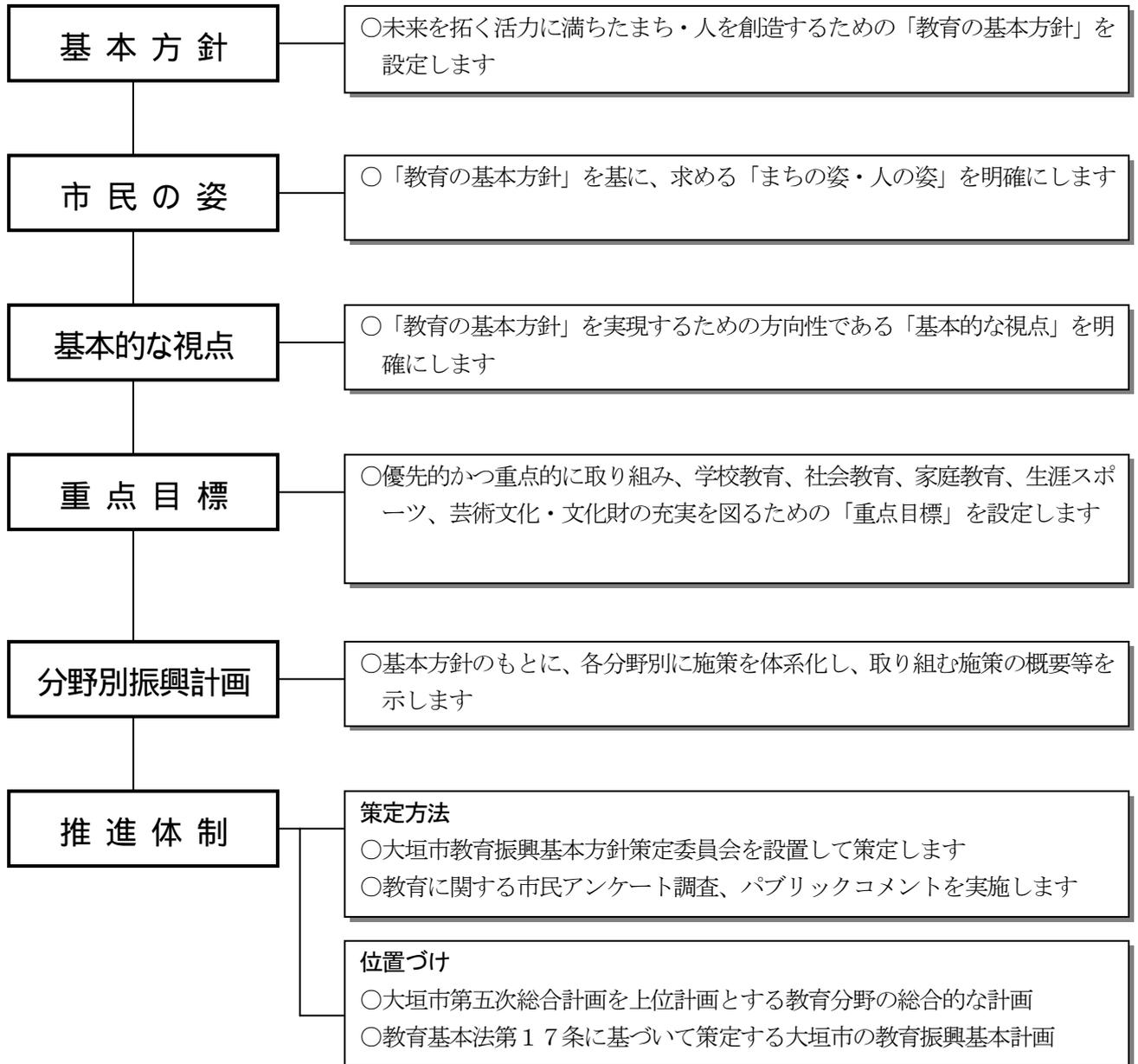
☞ **大垣市教育の振興・発展を、学校・家庭・地域が連携し、実現する施策**

3. 今後目指すべきポイント

- ◎大垣市教育のあるべき姿を明確にし、具現化するための施策を展開する。
- ◎教育の抱える諸問題に対応するための組織体制を充実する。
- ◎「開かれた教育委員会」を目指し、その透明度を一層高めるため、市民に対して教育に関する情報提供に努める。
- ◎教育に対する要望を的確に把握した教育行政を推進するため、市民ニーズや意見を幅広く聴取するような仕組みを構築する。

第4章 大垣市教育振興基本方針の骨子

1. 骨子の概要



2. 基本方針

地方分権時代における教育行政の視点で大垣市の主体性を発揮し、自らの責任の下において、学校教育・社会教育・スポーツ・文化の振興と支援をするため、「文教のまち大垣」の特性を生かした「大垣市教育振興基本方針」を、次の3点を柱として位置づけ、策定するもの

- 伝統と文化を尊重し、幅広い知識と教養を身につけ、21世紀を切り拓く豊かな人間性の育成
- 家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他家庭教育の支援
- 学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力による安全・安心なまちづくり

☞ ~ ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣 ~

3. 市民の姿

教育には、幅広い知識と教養、豊かな情操と道徳心・奉仕の心を養い、伝統と文化の尊重、健やかな体を身につけることが重要な役割として位置づけられています。現在、教育が取り巻く環境が急激に変化しているなか、将来の発展の原動力は「ひとづくり」、すなわち教育においてほかならないことから、「奉仕の心、郷土愛、豊かな心、健康」な人であられるまちづくりを目標とするもの

求められる市民・まちの姿

○学びへの意欲と奉仕の心をもつ人であられるまち

生涯にわたって学ぶことのできる環境を整備し、互いに支え合う奉仕の心を醸成する

○かおり高い文化と郷土を愛する人であられるまち

大垣の伝統・文化を受け止め次代に伝え、それを継承し、より豊かなものに発展させる

○こころ豊かでたくましく生きる子どもであられるまち

規範意識、生命の尊さ、思いやりを培い、変化の激しい時代を生きる強い基盤を養う

○スポーツ等を通して健康な人であられるまち

生涯にわたって積極的にスポーツに親しむ習慣、意欲、環境を整え、健康を維持する

4. 基本的な視点

大垣市教育基本方針を実現するための、ひとづくりまちづくりの「方向性」を示すもの

○ひとづくりの視点

郷土の歴史と文化、産業の伝統を受け継ぎ、未来を拓く人をつくる

○文化創造の視点

地域に誇りをもち、地域の人が連携協力して新しい文化をつくる

○子どもの育成の視点

子どもが未来に夢を抱き、実現していく力を育てる

5. 重点目標と分野別振興計画

1. 優先的かつ重点的に取り組み、教育の充実を図るための目標

学校教育

保幼・小・中学校が連携し、「ひたむきに生きる力」を育むための教育環境を築きます

- (1) 生きる力をはぐくむ教育を推進します
- (2) 一人ひとりに応じた教育を実現します
- (3) 地域に開かれた学校づくりを推進します

☞ (仮称)大垣市学校教育振興計画

社会教育

生涯学習社会において、市民一人ひとりが自己を磨き、高めることのできる社会教育の充実を図ります

- (1) 社会教育推進体制の整備をはじめ、社会教育活動・社会教育施設の充実に努めます

☞ (仮称)大垣市かがやきライフ推進基本計画

青少年・家庭教育

家庭・学校・地域社会が相互に連携して、心身ともにたくましい青少年を育成します

- (1) 家庭や地域での青少年健全育成を推進します
- (2) 非行防止活動の強化など、社会環境の整備を進めます
- (3) 家庭の教育力の向上のため、保護者のニーズにあったきめ細かな家庭教育を支援します

☞ (仮称)大垣市青少年健全育成計画

生涯スポーツ

積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育成し、いつでも身近に親しむことのできるスポーツ環境を整備します

- (1) いつでも誰でも気軽に楽しく参加できる軽スポーツの普及と環境を整備します
- (2) 全国大会で活躍できるトップアスリートを育成します
- (3) さまざまなスポーツを体験し、スポーツ好きな子どもを育成します

☞ (仮称)大垣市スポーツ振興計画

芸術文化・文化財

大垣の伝統・文化を受け止め、継承・発展させ、豊かな心を育成します

- (1) 豊かな感性と創造性を育む、文化のかおり高いまちを目指して、芸術文化事業や芸術文化環境の充実に努めます
- (2) 文化施設の充実、伝統文化の継承、文化財愛護意識の高揚などにより、貴重な文化財の保護に努めます
- (3) 市史編纂事業の推進に努めます

☞ (仮称)大垣市文化振興基本計画

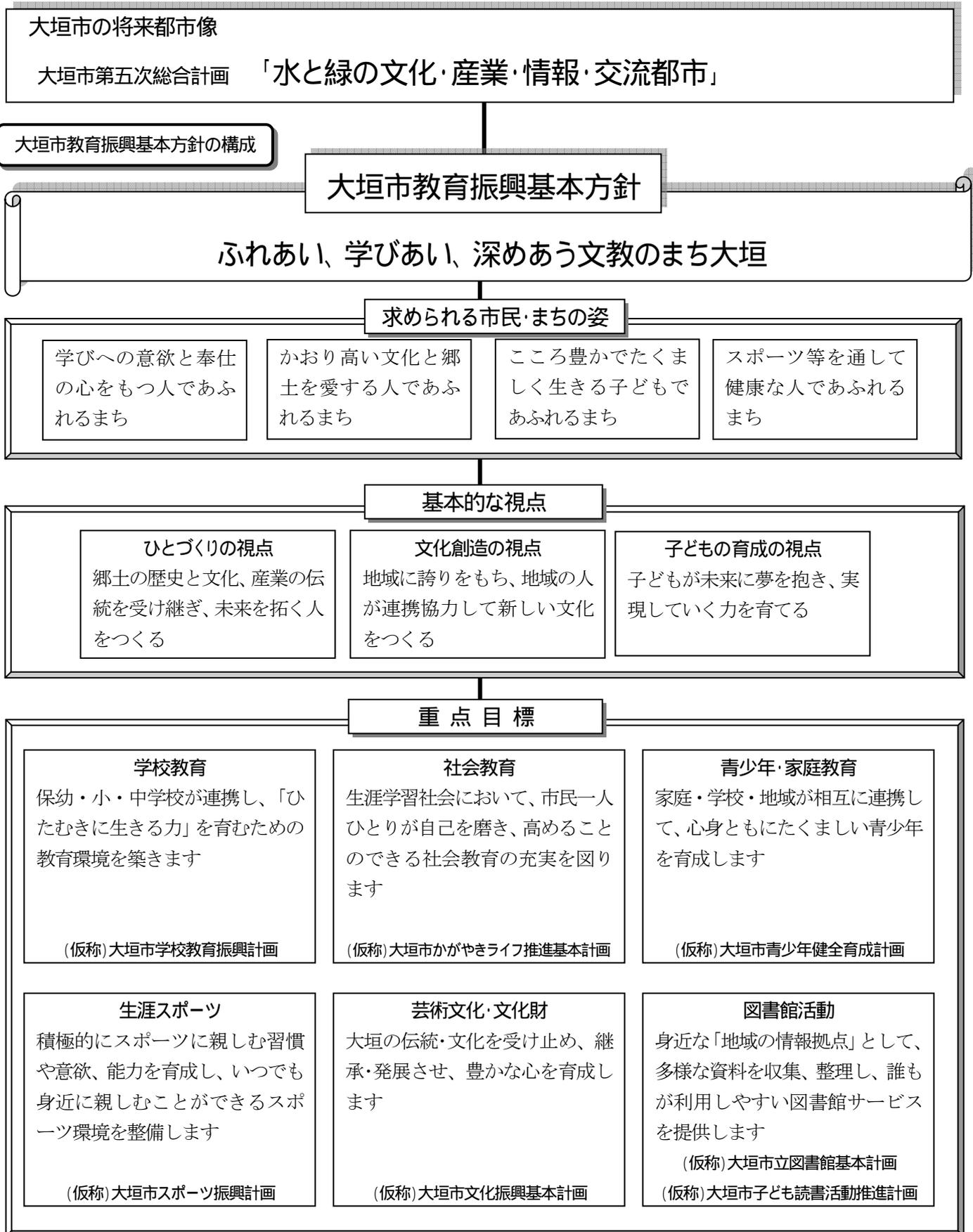
図書館活動

身近な「地域の情報拠点」として、多様な資料を収集、整理し、誰もが利用しやすい図書館サービスを提供します

- (1) 地域を支える情報拠点としての図書館の充実に努めます
- (2) 豊かな心を育む子どもの読書環境を整備します

☞ (仮称)大垣市立図書館基本計画
(仮称)大垣市子ども読書活動推進計画

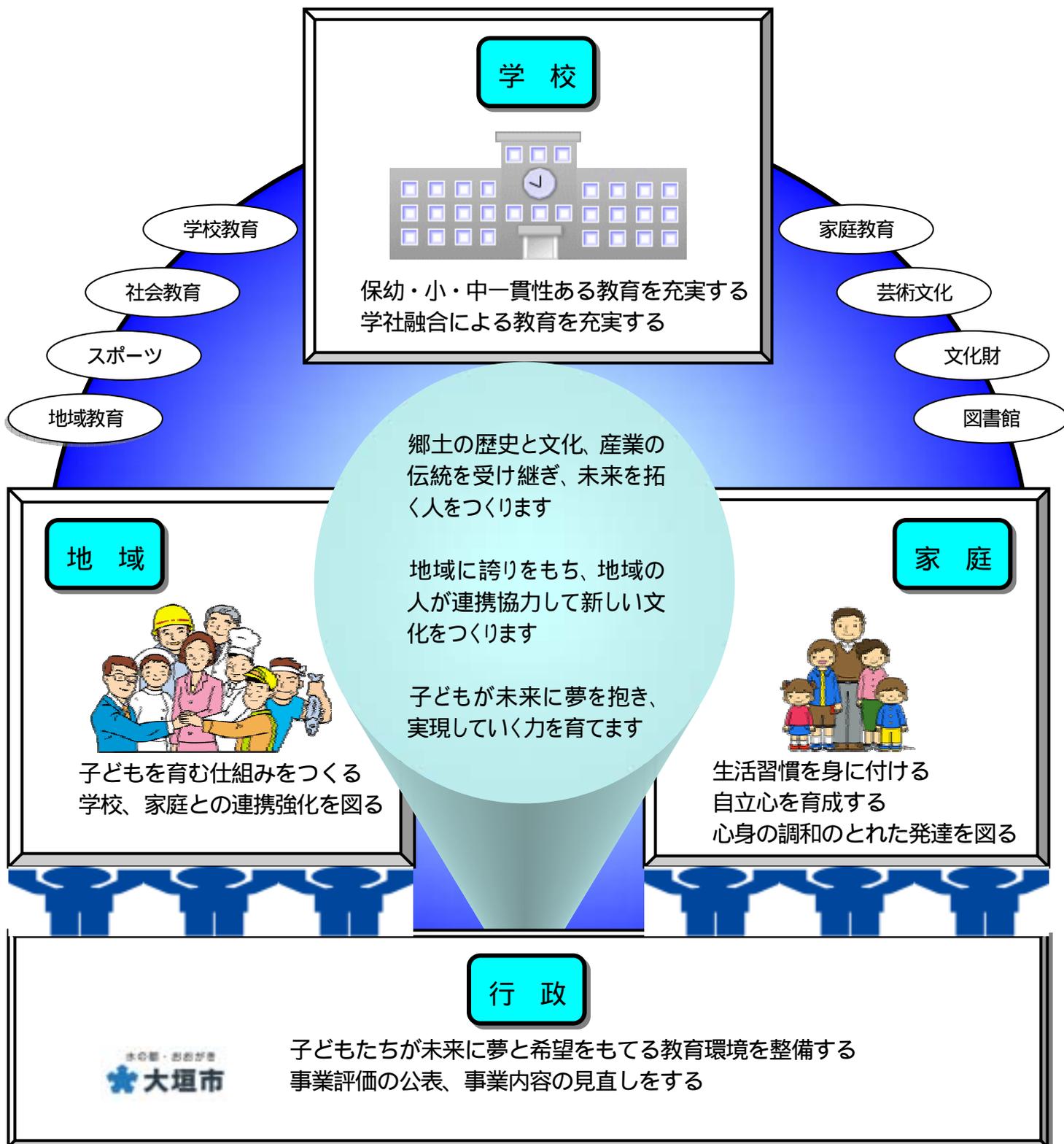
2. 構成



3.イメージ図

大垣市教育振興基本方針

ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣



6. 推進体制

策定方法

- 学識経験者、学校教育・社会教育・青少年育成・体育振興・文化振興・図書館関係者、市民委員（公募）で策定委員会を組織する。
- 施策の立案や実施におけるプロセスの透明性を確保するとともに、幅広い意見を得るため、教育に関する市民アンケート調査、パブリックコメントを実施する。

